

鹿児島県立図書館基本的運営方針（第2期）

人づくりに貢献し，成長し続ける図書館
～「知と知恵の拠点」を目指して～



令和7年3月

鹿児島県立図書館

鹿児島県立奄美図書館

<目次>

| | | |
|-----|---------------------------|----|
| I | 策定の趣旨 | 1 |
| II | 図書館を取り巻く社会状況 | 2 |
| III | これまでの取組の現状と課題 | 5 |
| IV | 新たな基本目標 | 13 |
| | 1 基本理念 | |
| | 2 基本目標 | |
| V | 重点施策及び重点事業 | 16 |
| VI | 計画の実現に向けて | 17 |
| | 資料1 計画期間における数値目標〔県立図書館〕 | |
| | 資料2 計画期間における数値目標〔県立奄美図書館〕 | |

I 策定の趣旨

公立図書館は、図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）に基づき文部科学省が定めた「図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成 24 年 12 月 19 日文部科学省告示第 172 号）」により、社会の変化や地域の実情に応じ、事業の実施等に関する基本的な運営の方針を策定することが求められています。

これを踏まえ、鹿児島県立図書館及び鹿児島県立奄美図書館（以下「両図書館」という。）では、令和 2 年 3 月に、おおむね 10 年後を見据えた図書館の目指すべき姿と、その後の 5 年間（第 1 期：令和 2 年度～令和 6 年度）の取組の方向性を示すものとして「鹿児島県立図書館基本的運営方針」（以下「方針」という。）を策定し、そこで定めた評価指標に基づき、毎年度自己評価を行うとともに、鹿児島県立図書館協議会の意見等を踏まえつつ、事業の充実及び運営の改善等に取り組んできています。

令和 7 年 3 月に第 1 期方針の最終年度を迎えることから、「第 4 期鹿児島県教育振興基本計画（令和 6 年 2 月策定）」及び「第 5 次鹿児島県子ども読書活動推進計画（令和 6 年 3 月策定）」並びに「鹿児島県読書バリアフリー計画（令和 6 年 3 月策定）」の内容を参酌するとともに、社会状況やこれまでの取組の状況、数値目標の達成状況を踏まえて、令和 7 年度から 5 年間の次期方針を策定しました。

本方針では、引き続き「人づくりに貢献し、成長し続ける図書館」を基本理念に掲げ、生涯学習の拠点として、図書館資料の充実及び提供を行い、読書活動を推進し、多様な学習機会の提供を更に充実させてまいります。

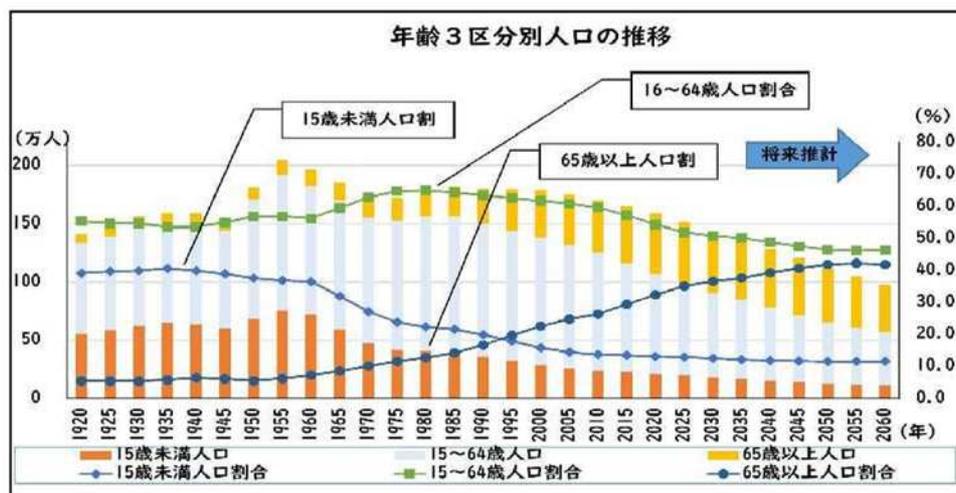
II 図書館を取り巻く社会状況

I 人口減少や少子高齢化の進行

令和2年に行われた国勢調査によると、本県の人口は、長期的な出生数の減少及び県外への転出者の影響により、平成2年の約179.8万人から一貫して減少を続け、30年後の令和32年には、約112.5万人になると予想されています。また、本県の15歳未満の人口は約20.7万人で、県人口の13.1%を占めていますが、令和32年には11.5%まで減少すると予測されています。

一方、65歳以上の人口の県人口に占める割合は、令和2年の32.5%から、令和32年には42%になると予想されています。

このような人口減少や少子高齢化の著しい進行により、地域コミュニティの崩壊や文化の消滅などが懸念される中、図書館には、地域コミュニティの維持への貢献や地域活性化に寄与する役割を務めることが求められています。



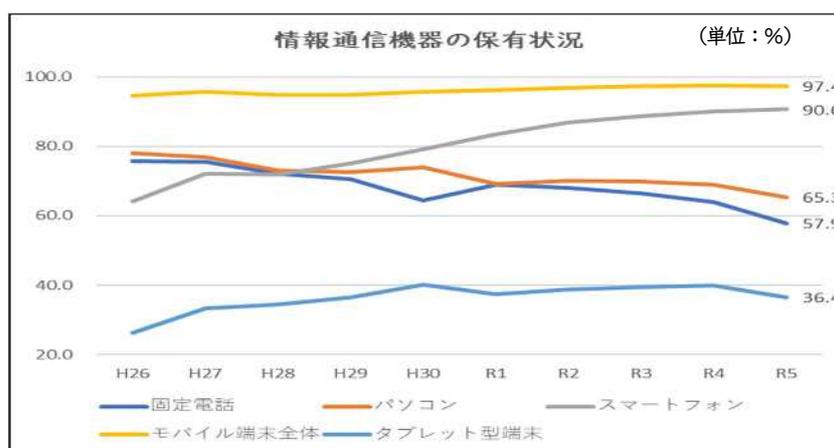
資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
※令和27年（2045年）以降は、社人研推計に基づき、まち・ひと・しごと創生本部が推計

2 デジタル化の進展

第4次産業革命ともいわれる、人工知能（AI）、ビッグデータ、IoT等の技術の急速な進展に伴い、社会の在り方そのものが劇的に変わる「Society5.0」時代の到来が予測されています。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、デジタル化の飛躍的進展をもたらし、社会全体のデジタルトランスフォーメーション（DX）、メタバースの活用等の推進に向けた環境整備が加速していく中で、教育の分野においてもデジタル化を更に推進していくことが不可欠です。

我が国においては、モバイル端末の世帯保有率が高く、社会生活の様々な分野においてデジタル技術を活用したコミュニケーションやサービスの提供が浸透しており、今後は、スマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスによる読書の割合が増加していくことが予想されます。

図書館には、社会のデジタル化、GIGA スクール構想等の進展等を踏まえ、緊急時等を含む多様な状況における図書館への継続的なアクセスを可能とするために、図書館のデジタルトランスフォーメーション（DX）を進めていくことが求められています。

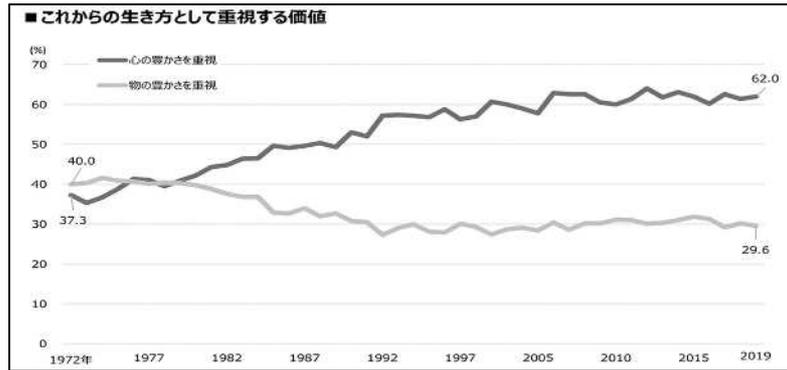


資料：令和5年通信利用動向調査報道発表資料（総務省）

3 価値観やライフスタイルの多様化

人々の価値観が、「物の豊かさ（経済的な豊かさ）」より「心の豊かさ（精神的な豊かさ）」を、「集団」より「個人の個性」を重視する傾向が強まるなど、多様化しています。また、高齢化や女性の社会進出などにより、個人のライフスタイルも多様化しています。さらに、若年層やデジタルネイティブ世代は、スマートフォンやタブレットを通じて情報を得ることが一般的となっており、これに対応するため、電子書籍やデータベースの充実を図ることが求められています。

これからの図書館には、図書資料の貸出や閲覧だけでなく、情報収集や課題解決支援、趣味や自己啓発・地域交流の場としての役割が求められており、価値観やライフスタイルの変化に柔軟に対応し、多様なニーズに応えることで、地域社会における重要な役割を果たすことが期待されます。



資料：消費者庁 消費生活の未来に関する調査報告書（2024）

4 地域課題の多様化・複雑化

人口減少・高齢化等による人口構造の変化が進み、住民ニーズや地域の課題は、多様化・複雑化していくことが想定されています。これに加えて、感染症に伴う新たな課題が加わり、地方が対処すべき課題はより複合的なものになっています。

地域社会においては、行政だけでなく、地域コミュニティやNPO、企業等の多様な主体の協働によるプラットフォームの構築や隣接する地域との積極的な連携により、それぞれの地域が抱える弱点を補完し合い、強みの相乗効果を発揮することが重要となります。

図書館においても、地域の情報を集約し、様々な機関・団体等と連携・協力体制の構築を図ることが求められています。

Ⅲ これまでの取組の状況と課題

第1期方針では、「人づくりに貢献し、成長し続ける図書館」を目指す姿に掲げ、4つの基本目標のもと、市町村図書館支援の充実や課題解決支援・学習支援の充実、郷土資料の網羅的な収集とデジタル化、読書活動の推進など14の施策に取り組んできました。

方針の進捗状況については、方針とともに定めた評価指標に基づき、毎年度自己評価を行うとともに、鹿児島県立図書館協議会を開くなどして施策ごとに評価を行い、その結果をホームページで公表しています。

第1期方針に掲げた数値目標における令和5年度末で評価可能な25の数値目標のうち、交流イベントや資料展等の参加者数、研修会等の受講者満足度などについては目標を達成できた一方で、その他の数値については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標達成には至っていません。

こうした取組の現状や課題に積極的に対応していく必要があります。

<基本目標ごとの取組の状況と課題>

1 支える図書館

県内の公共図書館（室）が多様なサービスを提供できるよう、ネットワークの構築や研究・研修の充実等に努めています。

(1) 市町村図書館支援の充実

ア 市町村立図書館等の要求に応える資料の整備

《状況》 県民や利用者の多様化・高度化するニーズに応える資料を収集するとともに、市町村立図書館等における読書活動の推進に役立つ資料の収集に努めています。



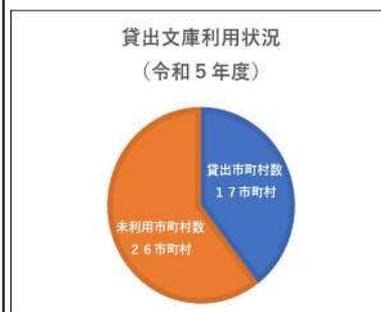
《課題》

- 社会や時代の変化、利用者ニーズや地域性に対応した図書館資料の収集・整備
- 図書館資料を活用した県民の生涯学習・地域課題の解決支援

イ 貸出文庫及び相互貸借の充実

《状況》 両図書館には、県内の市町村立図書館等との連携や支援を通して、県内全域における読書活動や図書館活動を推進する役割が求められています。

そのため、両図書館では、市町村立図書館等への貸出文庫や相互貸借を行うとともに、必要に応じて運営や図書館サービスに関する助言等を行っています。



《課題》

- 県内全域における図書館サービスの充実拡大
 - ・ 図書館資料の相互利用を活性化するための貸出文庫等の推進

(2) 図書館運営研究の拠点

ア 職員に対する計画的・継続的・段階的な研修の実施

《状況》 鹿児島県図書館協会や学校図書館協議会と連携を図り、図書館職員の資質や技能向上のための研修会等を実施するとともに、来館研修や職員派遣を通して、市町村支援の充実に努めています。

《課題》

- 全県的な図書館サービスの充実
 - ・ 市町村立図書館等の図書館職員の資質や技能の向上支援

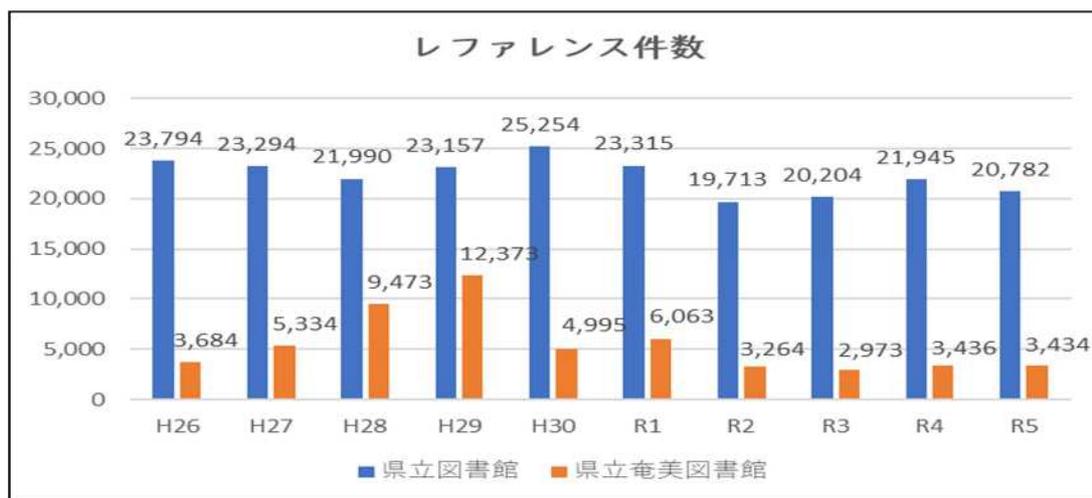
2 役立つ図書館

県の情報拠点として、県民や地域の課題解決支援が図れるよう、多様化・高度化する県民のニーズに応える資料の収集・保存や情報提供等に努めています。

(1) 課題解決支援・学習支援の充実

ア レファレンスサービス等の情報サービスの充実

《状況》 郷土に関する事項のキーワードやレファレンス事例の図書館管理システムへの入力、パスファインダーの作成などレファレンスツールの充実に努めています。



イ 課題解決支援コーナー等の充実

《状況》 「子育て・教育支援」、「医療・福祉支援」、「ビジネス支援」、「郷土・歴史支援」など、利用者のニーズや社会の変化等に合わせたコーナーを設置し、利用者が求める情報にいち早くアクセスできる環境づくりに努めています。

《課題》

- 県民や利用者の多様なニーズに対応した高水準のサービス提供
 - ・ 県民や利用者の課題解決に役立つレファレンスツールの充実及び提供
 - ・ 職員のレファレンス対応能力の向上

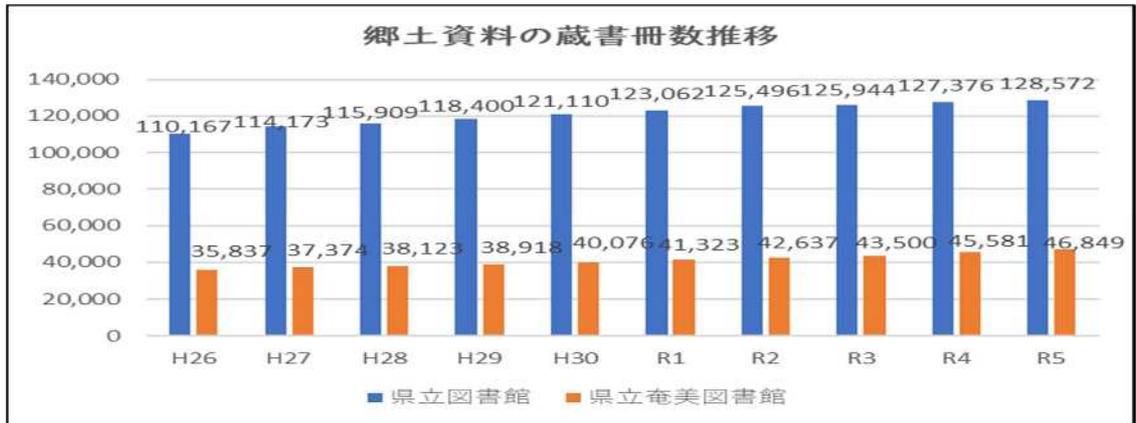
(2) 郷土資料の網羅的な収集とデジタル化

ア 郷土資料の網羅的な収集

《状況》 郷土に係る資料の収集と保存に努めるとともに、閲覧室に郷土資料コーナーを設置することで、地域文化振興の一助となるよう努めています。また、県内外からの鹿児島に関するレファレンスや資料の複写申込みに対応するなど、サービスの充実に努めています。さらに、行政機関や博物館・美術館等の出版物や研究論文等への資料

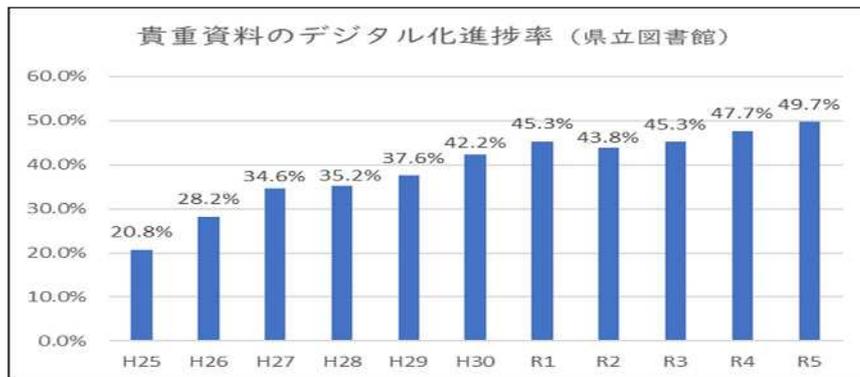
提供等を通じて、鹿児島県の文化の発信に努めています。

このほか、鹿児島県に関する新聞の収集・提供・保存を行うとともに、マイクロフィルムや電子データとして提供するなど、利便性の向上に努めています。



イ 貴重資料のデジタルアーカイブ化

《状況》 文化的に価値の高い資料や、劣化・破損等により閲覧に供することのできない貴重資料のデジタル化を進め、ホームページ上にデジタルアーカイブコンテンツとして公開し、利用者に提供できるよう努めています。また、県内各地の貴重な資料保存の一助となるよう、令和5年度には、県内歴史研究会等の活動状況調査を実施したところです。さらに、両図書館が所蔵する貴重資料の企画展示や歴史文化講演会等の開催を通して、鹿児島県の歴史・文化に対する県民の理解の促進と郷土愛の醸成に努めています。



《課題》

- 県内歴史研究会等と連携した郷土資料の積極的な収集・研究
- 郷土資料の閲覧及び活用の促進
 - ・ 郷土資料の展示やデジタルアーカイブ化
 - ・ 国史跡「鹿児島城跡」として指定を受けた敷地にある県立図書館として、黎明館と連携した郷土資料の積極的な発信
 - ・ 世界自然遺産に登録された奄美大島に位置する奄美図書館として、郷土への学びが深まるよう郷土資料の積極的な発信
- 図書館資料の防災対策

3 つなぐ図書館

県民が新たな知を創出できるよう、居心地のよい空間やコミュニケーション空間の充実を図りながら、人と人、人と情報がつながるよう、知識や知恵、情報の交流の場づくりに努めています。

(1) 人と人をつなぐ環境づくり

ア 交流イベントの開催

《状況》 入館者数は、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少して以降、全国的に緩やかな回復を辿る一方で、本県では令和4年4月に鹿児島市立天文館図書館がオープンするなど、図書館を利用する人たちを受け入れる環境が以前より整ってきたことや、スマートフォンの普及等によるインターネットの利用拡大など若者の読書離れの影響等もあり、横ばい状態が続いています。

このような状況の中、季節や社会の話題に合わせた図書を紹介する展示コーナーを設置するほか、学習スペースの提供や研修室貸出の促進を図るとともに、「県図書ほっとフェス」や「クリスマスおはなし会」等の交流イベントを開催し、図書館利用の促進に努めています。



《課題》

- 読書を媒体とした交流拠点機能の充実
- 親しみやすい図書館としての雰囲気づくり

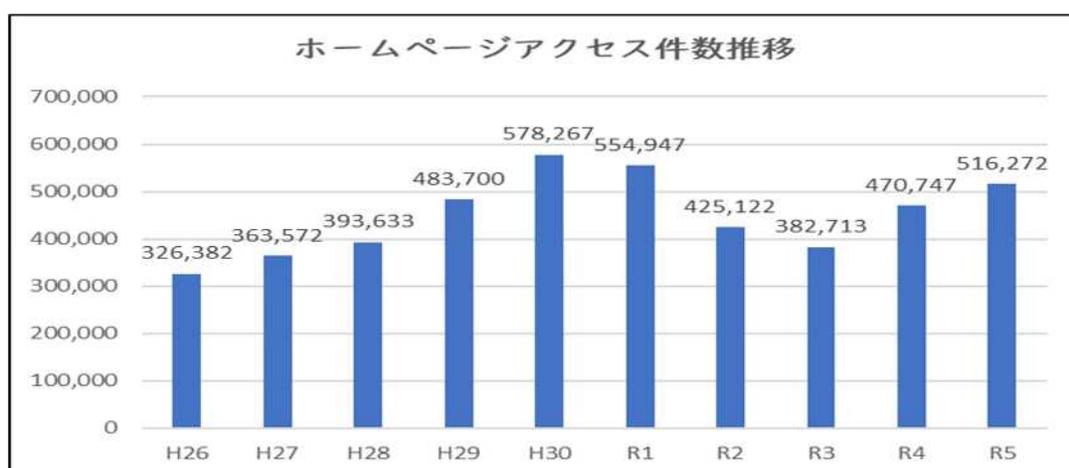
(2) 情報と人をつなぐ環境づくり

ア HP・SNSを活用した情報提供及び情報交流の場づくり

《状況》 平成 22 年度の図書館情報システムの更新に伴い、ホームページから県内の市町村立図書館や大学図書館等の蔵書が検索できる「横断検索」等の新たな機能を追加しました。

また、ホームページや Instagram, Facebook 等の SNS を活用した開館状況や講座・イベント等に関する情報の発信や本の予約サービスの提供など、利便性の向上に努めています。

さらに、行政機関等と連携し、各機関等が作成したチラシやパンフレット等を集めた情報提供コーナーの設置や館内での展示を実施するなど、利用者の生活に役立つ情報を提供するとともに、情報交流の場づくりに努めています。



《課題》

- 多様な媒体を活用した図書館情報の効果的な発信
- 市町村立図書館等の情報交流の推進
 - ・ 情報の積極的な収集及びホームページを活用した情報の共有

4 育む図書館

県民が生涯にわたって読書に親しみ、郷土に学ぶ心を育めるよう、県民の読書活動を積極的に推進するとともに、郷土の人や歴史等への理解を深める場の提供に努めています。

(1) 子供読書活動及び大人読書活動の推進

《状況》 乳幼児向け絵本，児童向け，中高生向け図書資料など年代に対応した図書資料の充

実を図るとともに、本を選択する際の参考資料として「にじいろのほん」や「児童図書モデルリスト」を作成し、児童図書の利用拡大に努めています。また、「おやこ一冊読書」、「1日20分読書運動」、「宝本に関するエピソード展」等を通して、学校や地域の取組事例の普及に努めています。そのほか、奄美群島においては「ネリヤカナヤ創作童話コンクール」を実施し、地区内図書館（室）を中心にした読書活動の推進に努めています。

少子化が進行するなか、児童文化室における図書資料貸出冊数の推移を見ると、近年減少傾向にあります。個人貸出のほか貸出文庫や団体貸出を通して学校図書館等への支援を行い、子供読書活動の推進に努めています。また、家庭・地域・学校の関係者など幅広い年代を対象に読書活動に関する知識と技能の向上を図られるよう、親子読書研修会や読書指導者等研修会を実施しています。



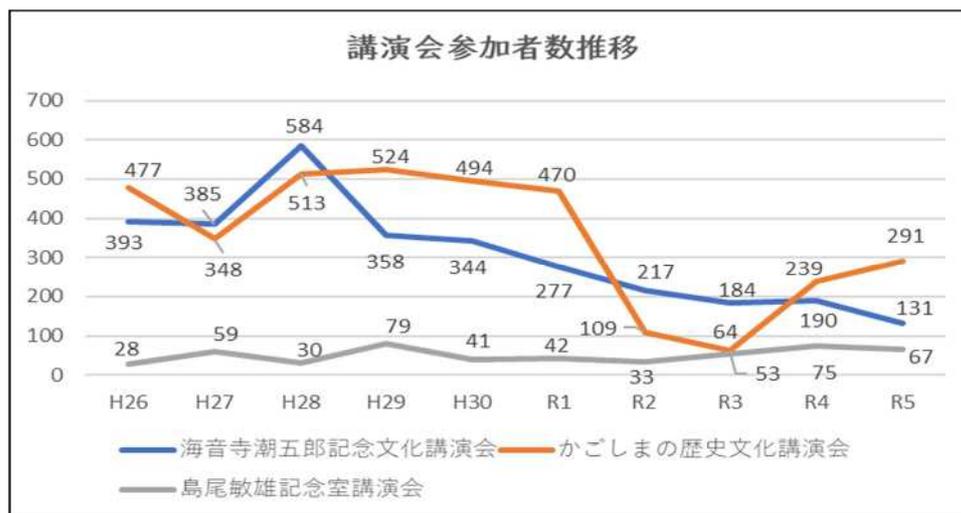
《課題》

- 子どもの読書活動の推進
 - ・ 親子読書会や読書グループ等の活動の促進に向けた啓発
 - ・ 市町村立図書館（室）及び学校等の関係職員を対象とした研修の充実
 - ・ 団体貸出等の周知拡大及び利用促進
- 誰もが読書を楽しむことができる環境の整備
 - ・ 貸出及び返却の郵送サービスの提供
 - ・ バリアフリー図書資料の充実
 - ・ アクセシブルな電子書籍の導入

(2) 郷土の人・文化の理解と継承

《状況》 県立図書館では、「海音寺潮五郎記念文化講演会」や「かごしまの歴史文化講演会」を、奄美図書館では、「島尾敏雄記念室企画展・講演会」、生涯学習講座「あまみならでは学舎」等の開催により、郷土の人・文化の理解と継承に努めています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、近年、参加者が減少していましたが、講演会の周知先に学校を加えたり、講座のオンライン配信を行ったりするなどの工夫により、参加者の増加に努めたところです。



《課題》

- 貴重資料の更なる収集・整理・保存・提供
- 大学や他の機関と連携した貴重資料・アーカイブに関する調査・研究
- 郷土鹿児島島の歴史や文化に対する県民の理解の促進
 - ・ 企画展や文学講座，講演会，生涯学習講座等の継続的な実施

IV 新たな基本目標

I 基本理念

「人づくりに貢献し、成長し続ける図書館」

～「知と知恵の拠点」を目指して～

両図書館は、郷土資料をはじめとする図書館資料を収集・整理・保存して県民に提供するとともに、広域的な自治体が設置する図書館として、市町村立図書館（室）の運営や諸活動を支援してきました。

また、県域における読書活動を推進するため、講座・研修等による読書活動推進人材の育成を図り、読書に親しむ交流イベントを実施してきました。

さらに、生涯学習の視点に立ち、県民の課題解決や学習を支援するとともに、本や読書を通じて県民の文化交流が図られるよう、講演会や展示等を実施してきました。

誰もが生涯を通じて幸せや生きがいを感じながら意欲的に自己実現を目指す人づくりに貢献できるよう、引き続き、社会状況の変化や時代の要請を踏まえながら、更なる図書館運営の充実を目指して、次の基本目標のもとに事業や取組を展開していきます。

2 基本目標

＜基本目標Ⅰ＞ 資料の充実とデジタル化の推進

- 1 市町村立図書館等との役割分担を明確にし、県立の図書館として果たすべき役割を意識した効率的な資料の収集・整備に努めます。
- 2 県民の生涯学習や地域課題の解決を支援するため、利用者のニーズや鹿児島県の地域性、社会や時代の変化等に対応した資料の整備と活用を図ります。
- 3 県内各地に保存されている貴重な郷土資料について、県内歴史研究会等との情報共有を図るなど、より積極的な収集・研究に努めるとともに、貴重資料を保存するための空間確保及び資料の防災対策に取り組めます。
- 4 貴重資料紹介展をはじめとする郷土資料の展示やデジタルアーカイブ化により、閲覧及び活用の促進を図ります。

＜基本目標２＞ 市町村立図書館等との連携強化

- 1 両図書館がネットワークの中心となり，市町村立図書館をはじめとする県内図書館の蔵書の相互利用を活性化し，貸出文庫や相互貸借により他館の蔵書不足を補うなど，県内全域における図書館サービスの充実・拡大を推進します。
- 2 県内の市町村立図書館等に関する情報の積極的な収集に努め，ホームページを活用した情報の共有を図るとともに，各館の情報交流を推進します。
- 3 第5次鹿児島県子ども読書活動推進計画のもと，生涯を通じて読書に親しめるよう，親子読書会や読書グループ等の活動促進を啓発するとともに，市町村立図書館（室）及び学校等の関係職員を対象とした研修の充実を図り，子どもの読書活動を推進します。
- 4 両図書館が所蔵する郷土に関する貴重資料等について，大学や他の機関と連携した資料調査やアーカイブに関する調査・研究に努めます。

＜基本目標３＞ 個別最適なサービス機会の充実

- 1 県民や利用者の多様なニーズに対応した高水準のサービスを提供できるよう，レファレンスツールの充実を図るとともに，レファレンス記録を蓄積し，アクセシブルな公開方法により，県民への課題解決に向けた情報提供に努めます。
- 2 両図書館が実施している団体貸出等のサービスについて周知を拡大し，制度の利用促進を図ります。
- 3 来館することが困難な利用者に対して，貸出・返却の郵送サービスを提供するほか，鹿児島県読書バリアフリー計画に基づき，録音図書の貸出や大活字本コーナーの充実，拡大読書器の提供，アクセシブルな電子書籍の導入等の取組を確実に実践し，誰もが読書を楽しむことができる環境の整備に努めます。

＜基本目標４＞ 人と情報の交流拠点機能の充実

- 1 県立の図書館としての役割と機能を県民にわかりやすく示しつつ，親しみやすい図書館として誰もが気軽に利用できるような雰囲気づくりに努めます。
- 2 両図書館が提供するサービスやイベント等に関する情報を，ホームページ・新聞・テレビ・ラジオ・SNS等の多様な媒体を効果的に活用し，より積極的な発信に努めます。

- 3 企画展や文学講座，講演会，生涯学習講座等の開催を通して，郷土鹿児島 の歴史や文化に対する県民の理解促進を図ります。
- 4 文化庁から国史跡「鹿児島城跡」として指定を受けた敷地にある県立図書館として，黎明館と連携しながら，所蔵する鹿児島城を含む郷土資料の更なる発信に努めます。
- 5 世界自然遺産に登録された奄美大島に位置する奄美図書館では，奄美群島の豊かな自然や文化・歴史に関する学びが深まるよう，所蔵する郷土資料の更なる発信に努めます。

<基本目標5> 職員の資質向上

- 1 市町村立図書館等の図書館職員の資質や技能の向上を支援し，全県的な図書館サービスの充実を図ります。
- 2 県民や利用者の多様なニーズに対応した高水準のサービスを提供できるよう，図書館職員の接遇，電話対応，レファレンス対応能力などの資質・能力の向上に努めます。

V 重点施策及び重点事業

《基本目標と重点施策・重点事業の関連図》

| 基本目標 | 重点施策 | 重点事業 |
|------------------|--|---|
| 1 資料の充実とデジタル化の推進 | 1 図書館資料の計画的な整備 2 郷土資料の網羅的な収集 3 郷土資料のデジタル化 | 1-1 資料収集方針に基づく収集・整備及び重点収集資料の検討 1-2 雑誌スポンサー制度の実施と活用 1-3 計画的な蔵書管理 2-1 郷土資料の網羅的な収集 2-2 貴重資料の防災対策 3-1 郷土資料及び地方行政資料の電子化 3-2 貴重資料のデジタルアーカイブ化 |
| 2 市町村立図書館等との連携強化 | 1 市町村立図書館(室)支援の充実 2 ネットワークの構築 3 読書活動の推進 | 1-1 市町村立図書館(室)の要求に応える資料の充実 1-2 県内の相互貸借の充実 1-3 貸出文庫の充実 2-1 電算システムの維持管理及び充実 2-2 県内公共図書館(室)との連携 2-3 関係行政機関、学校、他の社会教育施設、民間の関係団体等との連携 2-4 行政の政策形成・政策研究への支援 2-5 大学図書館との連携 3-1 モデル図書室としての児童文化室・児童閲覧室の充実 3-2 「1日20分読書運動」の推進 3-3 学校図書館支援の充実 3-4 大人の読書活動支援 |
| 3 個別最適なサービス機会の充実 | 1 課題解決支援・学習支援の充実 2 利用者に対応したサービスの充実 3 視覚障害者等の読書環境の整備の推進 | 1-1 レファレンスサービス及びレファレンスツールの充実 1-2 課題解決支援コーナーの充実 1-3 課題解決支援等に関する講座、講演会の実施 2-1 ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの充実 2-2 図書館のハイブリッド化に向けた調査・研究 3-1 アクセシブルな電子書籍等の普及及びアクセシブルな書籍(デジター図書等)の継続的な提供 3-2 アクセシブルな書籍等の量的拡充 3-3 視覚障害者等の障害の種類・程度に応じた配慮 |
| 4 人と情報の交流拠点機能の充実 | 1 読書を媒体とした交流拠点機能の充実 2 情報発信力の強化 3 郷土の人・文化の理解と継承 | 1-1 快適性・安全性に配慮した施設整備(施設の防災対策・警備対策・バリアフリーの推進等) 1-2 研修室利用の促進 1-3 交流イベントの開催 1-4 魅力ある講座の実施 2-1 積極的・計画的な広報活動 2-1 HPやSNS等を活用した効果的な情報提供 2-3 展示の充実 3-1 海音寺潮五郎記念事業の充実 3-2 貴重資料関連行事の実施 3-3 県内歴史研究会や大学等と連携した貴重資料の調査研究 |
| 5 職員の資質向上 | 1 図書館職員の資質向上支援 2 読書活動推進人材の育成 | 1-1 図書館「総合」講座等の充実 1-2 県図書館大会の充実 1-3 県内公立図書館(室)等の巡回訪問 1-4 職員に対する計画的・継続的・段階的な研修の実施 2-1 読書活動推進人材スキルアップ事業等の実施 2-2 ボランティア人材の育成 |

VI 計画の実現に向けて

基本的運営方針に掲げる基本理念の実現に向けて、毎年度、事業計画を策定し、事業等の着実な推進を図ります。

また、資料1及び2に掲げる指標に基づき、毎年度、自己評価を行うとともに、評価結果を図書館協議会に報告して意見・提言を求め、図書館運営の改善を図ります。

資料1：計画期間における数値目標〔県立図書館〕

| 目標 | 指標 | 数値目標 | | 備考 |
|------------------|--------------------------|----------------|-----------------|-------------------------|
| | | 現状 (令和5年度末) | 目標 (令和11年度末) | |
| 1 資料の充実とデジタル化の推進 | (1) 蔵書冊数 | 932,902冊 | 990,000冊 | |
| | (2) 郷土資料の蔵書冊数 | 128,572冊 | 137,000冊 | |
| | (3) 郷土資料のデジタル化進捗率 | 50.6% | 63.0% | 両館共通（デジタルアーカイブが両館共通のため） |
| 2 市町村立図書館等との連携強化 | (1) 相互貸借冊数 | 5,991冊 | 6,700冊 | |
| | (2) 貸出文庫冊数 | 25,415冊 | 25,500冊 | |
| | (3) 横断検索件数 | 30,728件 | 40,000件 | 両館共通（横断検索システムが両館共通のため） |
| 3 個別最適なサービス機会の充実 | (1) レファレンス受付件数 | 20,782件 | 21,000件 | |
| | (2) 団体貸出件数/冊数 | 70件/608冊 | 90件/700冊 | |
| | (3) バリアフリー図書資料数（電子書籍を除く） | 3,602冊 | 3,700冊 | |
| 4 人と情報の交流拠点機能の充実 | (1) 研修室利用件数 | 132件 | 170件 | |
| | (2) ホームページアクセス数 | 516,272件 | 570,000件 | 両館共通（トップページが両館共通のため） |
| | (3) ボランティア登録者数 | 126人 | 160人 | |
| | (4) 資料展等の参加者数 | 1,772人 | 2,500人 | |
| 5 職員の資質向上 | (1) 講座・研修等への参加者数 | 617人 | 700人 | |
| | (2) 講座等に対する参加者の満足度 | 85% | 100% | |

| 参考指標 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|------|---------|---------|---------|---------|
| 入館者数 | 328,535 | 321,546 | 329,250 | 323,436 |
| 貸出冊数 | 310,437 | 344,775 | 287,449 | 234,452 |

※ バリアフリー図書資料：大活字本、LLブック、触る絵本、布の絵本、DAISY、点字資料

資料2：計画期間における数値目標〔県立奄美図書館〕

| 目標 | 指標 | 数値目標 | | 備考 |
|------------------|------------------------------|----------------|-----------------|-------------------------|
| | | 現状 (令和5年度末) | 目標 (令和11年度末) | |
| 1 資料の充実とデジタル化の推進 | (1) 蔵書冊数 | 253,155冊 | 280,000冊 | |
| | (2) 郷土資料の蔵書冊数 | 46,849冊 | 55,000冊 | |
| | (3) 郷土資料のデジタル化進捗率 | 50.6% | 63.0% | 両館共通（デジタルアーカイブが両館共通のため） |
| 2 市町村立図書館等との連携強化 | (1) 相互貸借冊数 | 2,645冊 | 2,900冊 | |
| | (2) 貸出文庫冊数 | 1,373冊 | 1,600冊 | |
| | (3) 横断検索件数 | 30,728件 | 40,000件 | 両館共通（横断検索システムが両館共通のため） |
| 3 個別最適なサービス機会の充実 | (1) レファレンス受付件数 | 3,434件 | 3,800件 | |
| | (2) 団体貸出件数/冊数 | 8件/111冊 | 10件/190冊 | |
| | (3) バリアフリー図書資料数 (電子書籍を除く) | 1,080冊 | 1,200冊 | |
| 4 人と情報の交流拠点機能の充実 | (1) 研修室利用件数 | 168件 | 200件 | |
| | (2) ホームページアクセス数 | 516,272件 | 570,000件 | 両館共通（トップページが両館共通であるため） |
| | (3) ボランティア登録者数 | 19人 | 20人 | |
| | (4) 資料展等の参加者数 | 511人 | 650人 | |
| 5 職員の資質向上 | (1) 講座・研修等への参加者数 | 109人 | 150人 | |
| | (2) 講座等に対する参加者の満足度 | 100% | 100% | |

| 参考指標 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|------|---------|--------|--------|--------|
| 入館者数 | 108,929 | 74,210 | 93,583 | 90,715 |
| 貸出冊数 | 111,734 | 86,248 | 98,784 | 83,309 |

※ バリアフリー図書資料：大活字本、LLブック、触る絵本、布の絵本、DAISY、点字資料